

第 1 回 高校生 東南アジア 小論文 コンテスト

最優秀賞

関東国際高等学校 3 年 春名千鶴さん

私は、インドネシアの友人数人に

「避難訓練をしたことがある？」

と質問したことがある。しかし全員が避難訓練が何かを知らなかった。インドネシアの学校でも教わったことはないという。日本の学校では、地震・火災等を想定した避難訓練を原則、中学校までは年間11回以上、高校では4回以上、実施しなければならない。

この体験から日本とインドネシアでは災害についての考えが同じではないと感じた。

2004年に起きたスマトラ沖地震は、多くの犠牲者を出した。その時の動画を見ていて、私は気づいたことがある。人々は迫りくる波を見て全く逃げようとせず、興味本位でどんどん海に近づいていくのだ。動画では、

「 Look at that! What is that? 」

という声や笑い声が飛び交っていた。しかし、一瞬でその声も消え、全てが流されていった。私はこの時、東日本大震災時のテレビ映像を思い出した。あの時も大きな津波が押し寄せ

たが、住民達は声を掛け合い、急いで高台に上っていた。自治体の放送でも、繰り返し避難を呼び掛けていた。住民たちは、津波が何回も来ることを知っていたのだ。

ここで分かったことは、インドネシア人の多くは津波が何かを分かっていたいなかったということだ。先ほどの私の友達も、聞いたことはあるが、それが何を引き起こすのかは知らなかった。そして被害が拡大した原因の一つに、「津波は日本でしか起こらない」という認識があった。実際にインドネシア語大辞典には、津波とは「日本とその近辺で起こる波」と記載されている。また、津波はインド洋では起こらないという考えがあったと新聞にも紹介されていた。しかし、これらは全て人々の思い込みだったのだ。

この反省から 2011 年に津波警報を発令する制度が整備された。しかし、その運用にはまだまだ問題がある。津波警報はテレビやラジオ放送で速報されるが、その伝達も大幅に遅

れている。また、現地の調査では放送よりも近所の人や叫び声の方が強い影響力を持っていたのだ。そこで私は、瞬時に人々へ警告するため、観測計とモスクのスピーカーを連動させて情報発信をできないかと考えた。これらを繋げればメディアを通さず住民へいち早く警告できる。多民族国家のインドネシアでは、日々親しみ影響力のあるメディアを活用することで信頼も得られると考えた。もう一つは国全体で災害への意識を変えることだ。国民が得る情報源、新聞・テレビ・辞書などには、災害は特定の国だけではなく、世界のどこにでも起こりえると書き換えるべきだ。

防災への関心を深め、自覚を持つことで被害の拡大は防げる。インドネシアでは日本のために多くの式典や追悼式を実施している。私は子供から大人まで参加している姿がとても印象に残っている。日本には祈る習慣がないが、災害への理解・配慮・関心を伝えることで応えたい。それが一番必要なことである。

## 参考にした資料やホームページの情報

論文の中で他の著作物を引用する場合は、参考にした資料やホームページの情報を、記入欄にご記入ください。

ホームページの場合：サイト名、資料のタイトル

書籍の場合：著者名、書名、出版社名

### 【記入欄】

| 種類<br>(ホームページ, 書籍等)  | タイトル                                      |
|--|---|
| 東京都教育委員会 HP  | 災害安全に関する資料                                |
| by Coinkoba(Youtube)   | スマトラ沖大地震 津波到達の瞬間                          |
| by 大浜秀陸(Youtube)   | 2004年 スマトラ沖大地震 (巨大津波)                     |
| by FNN311(Youtube)   | 釜石市役所付近に押し寄せる津波 【視聴者提供映像】                 |
| 朝日新聞社 2004年12月27日版   | 地震・津波、死者6600人超                            |
| 朝日新聞社 2004年12月27日版   | 沿岸の貧困のむ、アフリカでも被害                          |
| 朝日新聞社 2004年12月28日版   | 防災遅れ犠牲拡大／津波到達10分以内                        |
| 朝日新聞社 記事データベース 聞蔵Ⅱビジュアル  | 迫りくる巨大地震 Xデー M7.6以上が連続発生 プレート境界型、次は日本？    |
| メディア研究部 HP   | 始動 インド洋津波警報システム                           |
| 朝日新聞社 記事データベース 聞蔵Ⅱビジュアル  | 災害の経験、復興に活かそう 京大典、スマトラ地震・津波研究会            |
| Jica 独立行政法人 国際協力機構 HP  | 11月5日は、初めての「世界津波の日」——日本の経験を世界の防災・減災に役立てる  |
| 日本経済新聞社 2015年12月26日版   | スマトラ沖地震11年、犠牲者を追悼                         |
| 出版社名：ISBN 979-407-182-X<br>著作名：PUSAT BAHASA DEPARTEMEN PENDIDIKAN NASIONAL | KAMUS BESAR BAHASA INDONESIA Edisi Ketiga |
| by Kyodo New (Youtube)   | スマトラ地震被災地も追悼 日本語の歌で励ます                    |
|  |   |